千葉市小山町観音地における
里山と自然の復元活動

平成２３年１月

緑の環・協議会

ま　え　が　き

晴天の霹靂のように産業廃棄物処理施設の建設問題が持ち上がり、建設阻止が成功した後に山砂採取跡地の里山への復元の課題が湧いてきました。

地元住民は新しい土地に手を加える余裕がなく、近隣団地住民には里山を育てる経験がありませんでした。しかし、処理施設を建設させず生物多様性に恵まれた谷津と谷津田を保全していくという気持ちと里山を復元していくという熱意を持ちながら、山砂採取跡地のほとんどに苗木を植栽するまでに至りました。

今後は、植えた木を育て生物の多様性に配慮しながら、世代を超えた人々が自然と触れ合う楽しみの場所として利用される活動を取り入れていきたいと考えております。

千葉県環境生活部自然保護課様におかれましては、生物多様性タウンミーティングを第１号として開催させていただき、環境団体や里山活動団体の支援を受けて植樹活動する中で、平成２０年度の生物多様性モデル事業として経済的助成をいただき、２１年度には生物多様性を促進する池を造るための助成をいただきました。そして今回、５年間にわたる緑の環・協議会の活動をとりまとめて記録にとどめ、更なる活動の発展のための資料作りにご支援いただき、深く感謝いたします。

この冊子が、里山づくりの事例のひとつとして用いられることを願っております。

平成２３年１月

緑の環・協議会
理事長　石 谷 栄 次

千葉市小山町観音地における里山と自然の復元活動

緑の環・協議会

千葉市緑区小山町観音地にある山砂採取跡地（2.2ha）が産業廃棄物処理施設として計画されていることが明らかとなり、地元住民と近隣団地住民が反対運動を展開しました。その結果、山砂採取跡地は公売にかけられ、地元の板倉大椎土地改良区が落札し、水源涵養林への復元活動が開始されました。

以後、２回の植樹祭を開催し、現在は平地部分を中心に２千本以上の苗木が植栽されました。私たちの活動地は、千葉市の谷津田保全協定区域に指定され、千葉県の教育の森にも指定されました。これからは、植栽した苗木を育成するとともに、地元住民と近隣団地の住民等の協働による新しい活動を模索する時期に来ています。

そこで、今までの活動を記録に残し、冊子にするとともに、地域住民はじめ広く県民への新たな呼びかけ資料とし、活動の理解と参加を呼びかける運動を展開したいと考えております。

＜時期別活動記録＞

１．産業廃棄物処理施設建設計画反対と土地改良区の土地購入（～平成18年９月）

平成17年１月産業廃棄物処理施設の設置許可申請書の縦覧によって、千葉市緑区小山町の山砂採取跡地（以後「跡地」という）が処理施設として計画されていることが明らかとなり、建設反対運動が起きました。世帯数約７千戸の新興住宅地「あすみが丘」のすぐ目と鼻の先となる小山町に約２万㎡の産業廃棄物最終処理場（７ページ参照）を建設するとのことでした。地元小山町から上申書が出され３分の２以上の住民の賛成を得られていないことが判明し､反対の火の手が上がり始めました。約6,300名の請願署名が千葉市に提出されたため、３月には千葉市当局に参加を求め自治会が勉強会を開催。約300名の参加があり議論が白熱。さらに、市議、県議、住民がそろっての現地見学会を開催。６月には、千葉市議会本会議にて建設反対の請願が採択。千葉市も業者に申請の取り下げを指導しているとのことでしたが、業者には一向にその気配がなく、１年半小康状態が続くこととなりました。平成18年８月国税庁は計画地を競売に出しました。当然業者は買いに入ることが予想され、業者と争って買いに参加できるか？　11日という短い応札期間では資金を募るなど不可能な話でした。そこに、板倉・大椎土地改良区（以後「土地改良区」という）が名乗りを上げてくれました。組合員の中にも議論がありましたが、水源涵養林の維持が子々孫々のために必要と合意されました。法律や不動産取引に精通したボランテイアと土地改良区の役員の間で極秘のうちに準備がされ、９月、僅差で業者に勝

利しました。まさしく快挙です。次世代のための支出を決意した土地改良区と多くの人達の協力の賜物でありました。

２．跡地の森林への復元の方向性検討とG20記念植樹祭の開催（～平成20年３月）

土地改良区の英断により土地を買い取り、平成19年10月に業者は産廃計画を取り下げたものの残った土地は完全に表土を剥されており、「森の復元」という目標にとってこれは始まりでしかなく、次のような多くの困難な問題を抱えていました。

①砂漠状態の土地に何か植えようにも、植物を育てる養分がないので、何が育つか不明。②植えたとしても、誰が面倒を看るのだという問題。土地改良区のメンバーには自分の山林も面倒看きれないという思いがある。③赤道（市が管理する生活道路）を元に戻すには、埋め戻す良質で大量の土と土木工事が必要。④道路付替え時に斜面林を切ってしまった斜面の崩れについて、保全工事が必要（土地改良区で応急工事済）。⑤そのうえ、無届で伐採され違法山砂採取により計画地に大穴をあけた業者が小屋を残して居据わっている。

そこで、土木工事の援助、業者への説得、跡地の復元プランの作成を依頼するため、地元と千葉市とで３回の協議会の開催、そして赤井裕先生による自然保護講座２回を開催しましたが、残念ながら、復元プランが定まらず、森の復元は行き詰ってしまいました。表土のない土地を森にする試みには公的支援がなく、何を植えたらよいかもなかなか決定できませんでした。悩みながらも、平成19年５月には約350本のスギ苗木の寄付をいただいて有志約20人で植えたほか、調査のため桜宮自然公園、谷当グリーンクラブ、下泉・森のサミットや大草谷津田生き物の里などのプロジェクトを見学、森林ボランテイア研修や自然保護講習を受講しました。10月、千葉県環境学習アドバイザー鈴木優子氏に指導をいただき、植生調査を行ないました。風や鳥が運んだ種子から芽生えた木の赤ちゃんが100本も発見され自然自らの回復力には驚かされ、我々が少し手助けをすれば森を復元できるのではという希望ができました。平成20年１月赤井先生を再び招いて現地を見ていただき、「一刻も早く多くの樹種の苗木を植栽すべき」の助言を得ました。３月には千葉県と千葉市から後援と協賛をいただき、「G20千葉2008」記念事業のプレ企画（注１）として植樹祭と自然観察会を実施しました。広く呼びかけ、多くの個人や企業から寄付をいただいた結果、子供36人を含む152人の参加者で、17種約600本の苗木を植えることができました。

（注１）G20記念企画とは：千葉県では、2008年３月14日～16日に千葉市（幕張メッセ）にてG20ちば2008国際会議が開催されました。「G20（気候変動、クリーンエネルギー及び持続可能な開発に関する閣僚級対話）」は洞爺湖サミットに先立ち、地球環境問題が話し合われたものです。そこで、村田川源流域の植林活動や自然観察会を通し、地球温暖化防止と生物多様性の保全に役立つと考え企画しました。

３．森を守り育てる会の設立と親子の参加（～平成21年３月）

植樹を契機に手入れ活動する母体として、平成20年５月に土地改良区、小山地区、

周辺住民が共同して「森を守り育てる会」 を立ち上げ、毎月定例手入れ活動を開始しました。９月には、「千葉県生物多様性モデル事業」に採択され、手入れに必要な道具を買い、ちば里山センターの協力を得て刈払機・チェンソーの研修２回を行なったほか、東部農林環境（株）より大量の腐葉土の寄付と入口道路の無償整備をしていただきました。12月には千葉市の後援をいただき、「落葉とドングリを集め、ありさんになって運んで、落葉のプールで遊ぶ」という企画を行いました。子供38人を含む90人が参加し、ドングリは苗床に蒔いたほか、ポットに植えて持ち帰って育て、植樹してもらう予定です。この苗を植樹する時には参加者の思いが違ってくるのではないでしょうか。また、落葉は堆肥場の木枠に溜め、子供達は落葉のプールで遊びました。自分が遊んだ落葉が時間と自然の力を借りて堆肥や土になることを実感してもらいたい。私達は、草刈り、苗作り、植樹、堆肥作りにイベントを盛り込み、環境教育を兼ねて楽しみながら企画を重ねることで、きっと森の復元の環が広がると感じました。この企画に共感してくれた家族の方がその後も任意で定例活動に参加し、３月には、チェーンソー研修で伐採した木を使ってシイタケの菌打ちを行ないました。

４．親子会員の登録と森もりあそび隊の設立（～平成22年５月）

落葉のプールからシイタケの菌打ちイベントを通じて、とかく子供達は禁止事項の多い中で痛みを体験できず、生き物を大切にする、自分と人の痛みを知る機会が減っていることから、森づくりを通じて自然に触れながら自由に遊ぶ場として親子会員が中心になって「森もりあそび隊」を設立し、森づくりプレーパーク（冒険遊び場）を始めました。以後、月例活動は、跡地の手入れ作業と森もりあそび隊の活動の両者が並列で実施されるようになりました。子供達が参加してくれることにより、かわいい看板や散策路の境界の木道の設置、刈った草を集めて斜面の崩壊対策などが出来ました。

前年度に引き続き、千葉県生物多様性モデル事業に採択され、灌漑用の池の企画は、ビオトープとして親子によって工事が進められ、生き物の観察場所と一緒に遊ぶ泥だらけのフィールドを提供してくれました。木工教室、自然観察会、森の恵みを生かす企画も始まりました。

５．国際生物多様性年グリーンウェイブ参加記念植樹祭の開催（～平成22年５月）

早急に荒地全面を植林するため、地元の小学校の協力を得て地元のドングリの幼木を育てて植える「千の苗・植林プロジェクト」を始めました。秋には大量のドングリを集め、地元三小学校に里親になってもらい、「里親になって！千の苗プロジェクト」を千葉県・千葉市の後援のもとに開催。子供21人を含む77人の参加で、特に生物多様性について、千葉県自然保護課の職員の紙芝居や大人を含めた里山シンポジウム分科会で意見交換が行なわれました。平成22年５月には、国際生物多様性年グリーンウェイブ（注２）に参加し記念植樹祭を開催しました。パルシステム千葉より助成金をいただき、購入したコナラ・クヌギと里親になり育ててもらった幼木を苗

床に移植。植樹祭は、千葉県、千葉市及びパルシステム千葉の後援をいただき、千葉市副市長、千葉県自然保護課生物多様性室長、千葉県議会議員・千葉市議会議員、千葉県・千葉市関係者、地元小学校他多くの来賓の参加のもと子供20人を含む98人の参加で、グリーンウェイブのカウントダウンや植樹が出来ました。その結果、跡地のほとんどに苗木（コナラ・スギ・マツ・クヌギ等2,084本）が植栽されるに至りました。この行事に先立ち観音地全体が谷津田保全協定区域として協定締結に至ったことは記念すべきことでした。この土地は今後５年間水源涵養林として土地改良区が購入した目的を行政と共有し、地元と都市住民が協働で植林の手入れ及び里山の活用を行う基盤が出来ました。抽選会では農家の方がこの秋に収穫される新米を提供してもらうなど、都市住民の参加者は農家の方々と地産地消の交流のきっかけが出来ました。

（注２）グリーンウェイブとは：毎年５月22日は、国連が定めた「国際生物多様性の日」です。生物多様性条約事務局は、国際生物多様性の日（５月22日）の午前10時に、世界各地の青少年の手で、それぞれの学校の敷地などに植樹等を行うことを、「グリーンウェイブ」として呼び掛けています。世界各地において、現地時間の５月22日の午前10時にカウントダウンで一斉に植樹・水やりなどを行うことにより、この行動が地球上を東から西へ波のように広がっていく様子を、「緑の波（グリーンウェイブ）」と表現しています。（環境省の報道発表資料より）

＜類型別活動記録＞

１．森林復元活動

跡地隣接の谷津田は村田川の源流部分に位置し、その重要性から平成18年８月に千葉市の谷津田保全協定区域に指定されました。跡地はちょうど谷津田に水を供給する水源涵養林のあった場所でしたが、産業廃棄物処分場計画地のため、指定されませんでした。復元活動が進むにつれて平成21年４月に斜面林部分が、翌年４月には全体が保全協定区域に編入されました。

谷津は水分環境に富んだ自然の宝庫であり、多様な生物の生息場所であることから、生物多様性に配慮した森林づくりを心がけています。

２．千の苗プロジェクトと教育の森活動

生物の遺伝資源保護の側面から地元のドングリから苗木を養成して森づくりする「千の苗プロジェクト」を計画し、地元の小学校（土気南小学校、あすみが丘小学校、大椎小学校）に働きかけて苗木づくりを行ないました。現在は、跡地の苗畑に1,800本の苗木が植栽されています。この跡地は平成21年11月に千葉県教育の森に指定され、小学校と森林教育との接点になろうとしています。

３．森もりあそび隊とプレーパーク活動

親子が自然の中でのびのびと遊ぶプレーパーク（冒険遊び場）活動に共鳴した親子会員が跡地の整備作業を手伝い、自然観察を行い、焚き火、昆虫採集、魚獲りやイモ掘りを体験しています。その体験を通して生き物を大切にすること、自然から

恵みを得ることを学び、今後も自由な発想の中でたくさんの遊びが考案されると期待しています。

４．被爆アオギリ二世の植樹

1945年８月、今から65年前、広島に原爆が投下されました。原爆の光と熱に焼かれて約10万人の人が死にました。建物も木も壊され焼かれてみな死に絶えたかに思われました。そして、さらに多くの人が原爆の後遺症で死んで行きました。広島には75年間草木も生えないだろうと言われました。しかしながら、爆心地から1,300ｍ（広島逓信局の中庭）のところにあったアオギリが生き残ったのです。爆心地側の幹半分が熱線と爆風にえぐられたアオギリが生き残るとは思えなかったわけですが、翌1946年の春に芽吹きました。原爆の悲劇にも負けずに、たくましく育ったアオギリは、当時絶望のどん底にいた人々を勇気づけ、現在もその傷跡を包むようにして成長を続けています。さらに2000年、このアオギリの近くでその苗木が発見され「被爆アオギリ二世」と呼ばれています。奇跡的に生き残り人々に生きる勇気を与え続けたこのアオギリの種を育てた苗木を、広島市（広島市市民局国際平和推進部平和推進担当）が「平和を愛する心」を後世に伝えるため、日本各地のほか、アメリカ、スイス、エジプト、ドミニカ共和国、中国、イギリス、イタリア、デンマークなどの諸外国に寄贈していて、この苗もその１本ということになります。

被爆アオギリ二世が二つの意味で、この跡地のシンボルツリーにふさわしいと思います。第一に、違法な採取によって表土をむしりとられた土地は、広島の焼け跡にも似ています。養分をもった表土をまったく削りとられているという意味で、こうして植えた苗木の生き残りさえも難しいものがあります。だから、皆さんに手伝っていただいて堆肥づくりをしているわけです。それでも何百年もかけて堆積してきた表土の質とはずいぶん違うものだと思います。この逆境にめげず、アオギリ二世がこの土地に力強く根付いて我々に勇気を与え続けてほしいと思います。第二に、森をつくることは水をつくることであり、ここでもこの苗木たちが立派な水源涵養林となってくれることを願って植林をしています。世界中で森を失うことによって砂漠化が始まり、水と食料をめぐって戦争がひきおこされています。ここに森を復活させることは小さな一歩であっても価値ある一歩であって、アオギリの平和への祈りに通じるものがあると考えます。ここに集まってくれた子供達が遭遇するであろう明日の世界が、少しでも平和で明るいものであることを願ってやみません。

５．グランドデザインの検討と活動記録の編纂

本活動は、産業廃棄物処理施設建設の反対と跡地の水源涵養林としての復元を目的として実施されてきましたが、専門的知識を持っている人材はほとんどいませんでした。そこで、千葉県、千葉市、その他多くの関係者の協力を得てグランドデザインを検討する中で苗木の植栽と手入れを行なってきました。今後に向けて、活動の記録をまとめ、整理しながら生物多様性を促進する森林づくりとは何かを検討する予定です。

＜その他＞

１．外部への広報活動と環境団体・里山活動団体との連携

本活動は、千葉県の生物多様性タウンミーティング第１号（平成18年10月）を開催したことを基点に、環境団体や里山活動団体の支援を受けて実施してきました。支援を受けるためには積極的な広報活動が必要であり、里山シンポジウムやちば里山センターで積極的に活動の様子を紹介し、そこで得られた意見を積極的に活動に取り入れる予定です。

２．千葉市と千葉県への支援要請

跡地の取得と手入れの経緯の中で、千葉市からは谷津田保全協定区域に指定され、千葉県からは教育の森に指定されました。さらに、千葉県から生物多様性モデル事業の助成を受けて積極的に活動を展開してきました。村田川の源流地帯に位置する貴重な谷津の自然を守るための活動を、千葉市と千葉県の支援の大きな流れの中で実施していく予定です。

３．企業・団体等からの支援

G20記念植樹祭を契機にパルシステム千葉、日本中央競馬会、㈱ リコー、省エネルギー輸送対策会議、東部農林環境㈱、㈱オーク情報システム、㈱ 東急セブンハンドレットクラブ、山崎農園等多くの企業･団体からのご支援をいただき、森の復元活動を進めることが出来ました。

写 真 集

１．山砂採取跡地の変遷

平成15年４月

平成18年５月

平成18年５月

平成17年２月

平成21年５月

２．Ｇ２０記念植樹祭の開催（平成２０年３月８日）

17種600本の苗木を植樹

記念植樹

子供たちも記念植樹

子供36人を含む152人が参加

植栽準備している跡地

トラクターによる耕耘

３．森を守り育てる会の月例活動

みんなで記念撮影

サツマイモ苗の植え方を教わる

ビニールハウスの組み立て

シイタケの菌打ち講習

マツ苗木の植栽

刈払機・チェーンソー講習後の記念撮影

４．森もりあそび隊（整備作業を手伝う子どもたち）

歩道の整備

エニシダの除去

堆肥運び

記念撮影

５．森もりあそび隊（自由な遊びをする子どもたち）

落葉のプールで

秘密基地建設

６．自然観察会

ザリガニを説明する指導員

みんなで樹木観察

７．千の苗プロジェクト

ドングリ・落葉運び

ドングリをポットに蒔く

８．生物多様性の説明、被爆アオギリ二世植樹

生物多様性について説明

被爆アオギリの植樹

９．国際生物多様性年グリーンウェイブ参加記念植樹祭の開催（平成22年５月22日）

副市長と子供の記念植樹

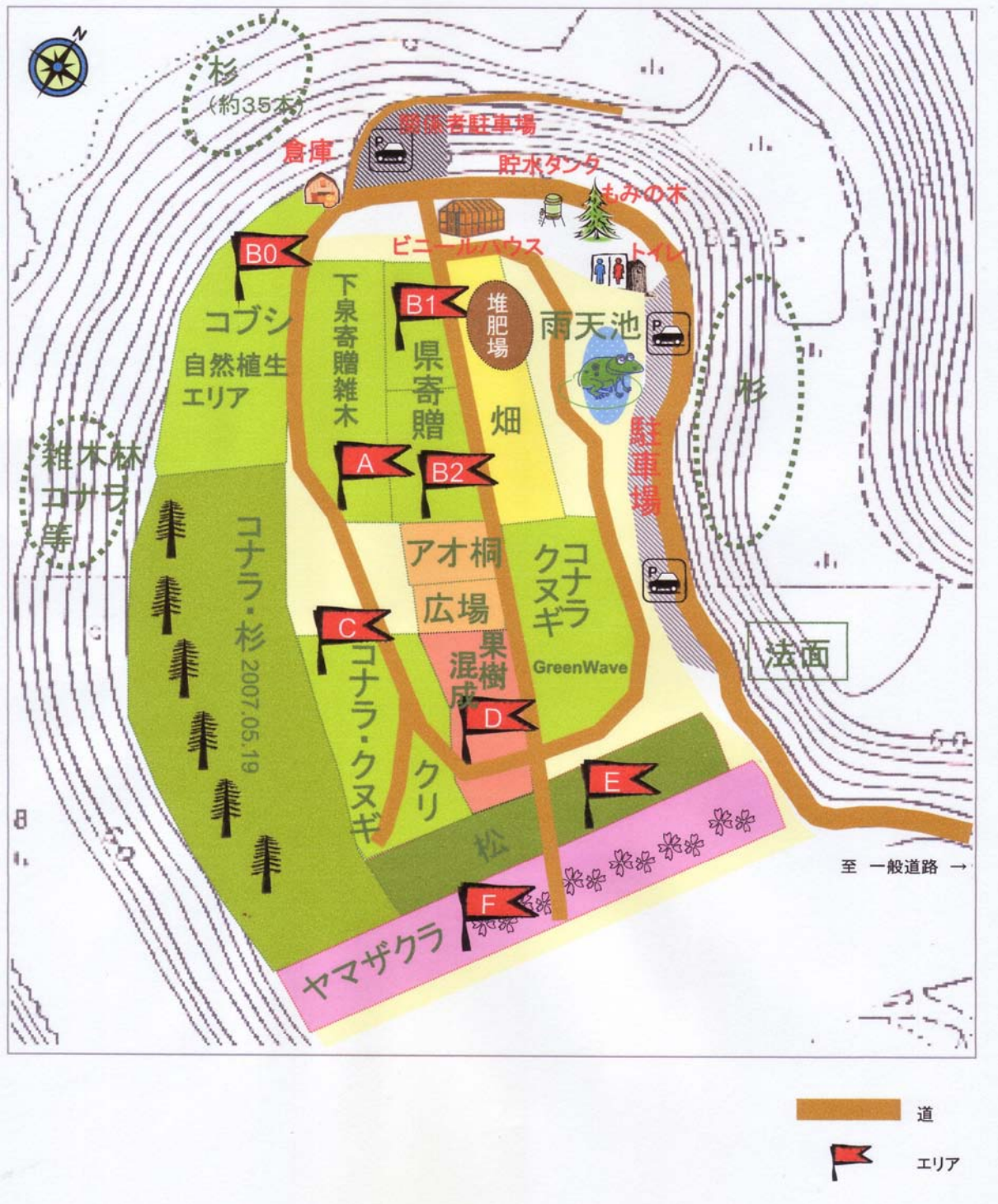
来賓者と子供の記念写真

苗床への植え替え

ぼくの苗木植えるもんね

集合写真

１０．里山の森、復元の現況図（平成２３年１月現在）



１１．活動地への道順

土気駅南口

↓

大椎中学校角･右折

↓

信号右折

下り坂

↓

昭和の森下夕田池

↓

昭和の森第３駐車場

↓

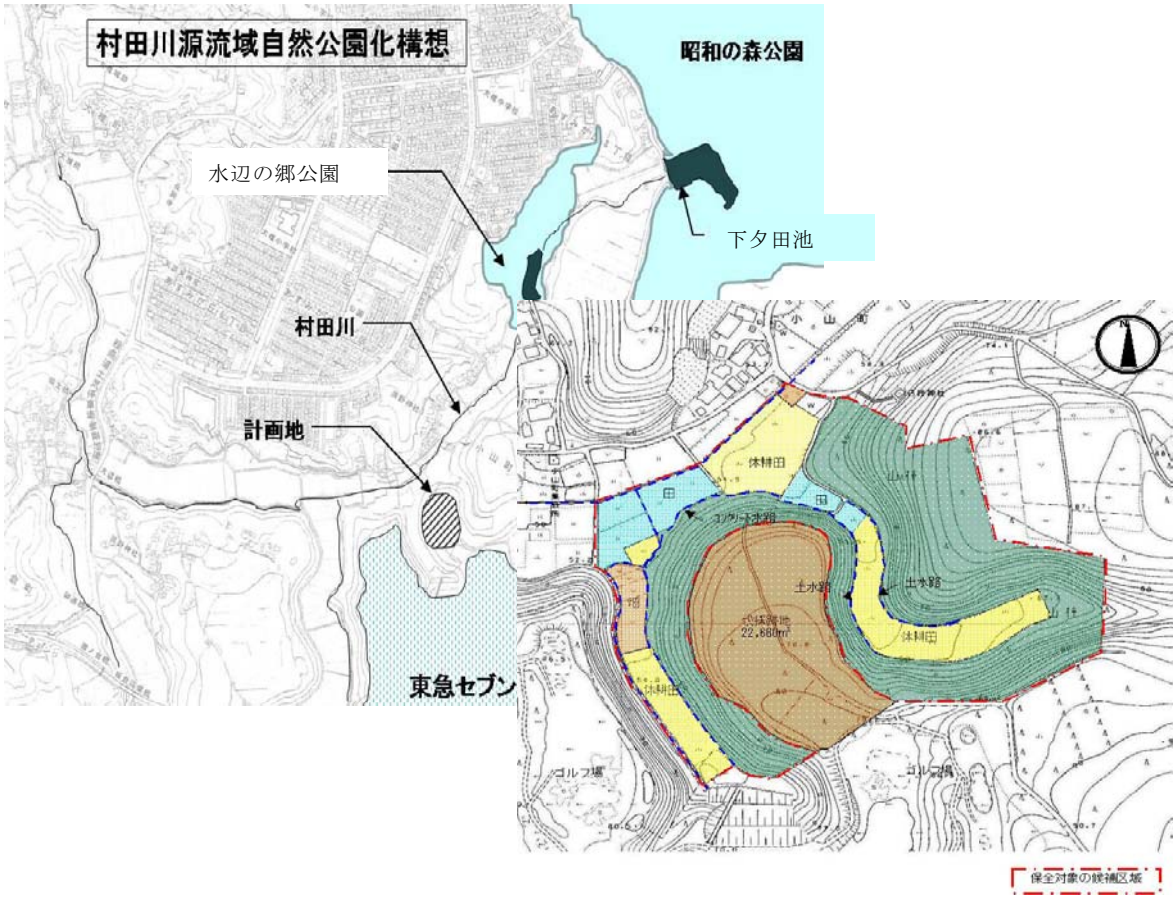
東急ｾﾌﾞﾝﾊﾝﾄﾞﾚｯﾄﾞｸﾗﾌﾞ入口

手前右折

↓

そのまま直進３００ｍ

１２．谷津田保全協定区域



この報告書は、千葉県環境生活部自然保護課が実施する平成２２年度生物多様性モデル事業の助成金によって印刷されました。

編集・執筆者（五十音順）
石谷栄次
奥山　淳
小高守正
金井章男
星野正人
星野静枝

千葉市小山町観音地における里山と自然の復元活動

発行日　平成23年１月
発行者名　緑の環・協議会
連絡先　〒267-0066
千葉県千葉市緑区あすみが丘2-38-15
TEL&FAX　043-294-6885
発行所　（株）ハシダテ